全国街路事業促進協議会 **会長賞**

都市高速鉄道相模鉄道本線大和駅周辺連続立体交差事業 （大和市）

■表彰対象者：神奈川県土木部

表彰の理由

交差する２本の鉄道により４分割されていた市街地が、長年にわたる幾多の困難を克服し、様々な工夫を施しながら施行され、市街地の一体化が図れたことの効果は著しく大きいとして評価された。

相模鉄道本線　地下取付部（横浜側）

大和駅周辺の街並み

整備後の大和駅前広場（横浜側）

整備前の大和駅前

事業のあらまし

大和市の中心市街地、相模鉄道本線の大和駅周辺は、踏切による交通渋滞が著しく歩行者の安全さえ脅かされる状況であった。加えて小田急電鉄江ノ島線が交差していることにより、駅周辺の市街地が４つに分断され都市機能に多くの歪みをもたらし、健全な街の発展を著しく阻害していた。このため、これらの弊害をなくし、魅力ある街づくりを促進するため連続立体交差事業を行ったものである。

事業の効果

連立事業の完成の後、歩専道の整備の完成、また、この事業を契機として新たな再開発への動きも周辺地域で現れてきており、今後大和駅周辺は大きく発展していくことが期待される。踏切除却による交通の円滑化、交差する２鉄道の連絡機能も図られ、更に分断された市街地を一体化したことは街づくりにインパクトを与えたし、今後も大きな効果を与えるといえる。

●延長：1,640m
●全体事業費：38,300百万円
　うち街路事業費：36,310百万円
●事業期間：昭和60年度～平成６年度

都市計画道路3・4・27号本町線シンボルロード整備事業 （彦根市）

■表彰対象者：滋賀県　彦根市

表彰の理由

地元住民と専門家が一体となった街づくりにより、城下町としての歴史的なイメージを良く反映した歩車道の整備を行うなど、地域の活性化に大きく貢献しているとして評価された。

夜の景観にも配慮した照明灯

地区計画により再生された城下町らしい建物景観

京橋から望む整備前状況

夢京橋を舞台に
開催されるイベント風景

全景（京橋から望む）

事業のあらまし

本町地区を南北に縦断する都市計画道路本町線は、築城当時の６ｍの道幅で、今日の交通事情に対応することができず、昭和60年度から街路整備を実施することになった。この際、通りのイメージを壊すことなく伝統的な街並み再生により町の活性化を図るため、沿道住民合意の上で地区計画決定、区域内における建築物の制限に関する条例を制定した。彦根市の顔となる「シンボルロード」として改築するため、電線類の地中化、自然石舗装の歩道・車道（停車帯）、照明灯、ケヤキ等の植栽を行い、「夢京橋キャッスルロード」の愛称で親しまれている。

事業の効果

事業着手前３割程度だった商店の数が、新しく店を始める人や、店舗付住宅に建替える人が増えたことにより、現在は８割程度をしめるようになった。このため、市民はもとより多くの観光客などが訪れるようになり、街は賑わいをみせるようになった。自分たちの街は自らの力で創り、次の世代へ引き継ぐという意識がつよくなった。

●延長：350m
●幅員：18m
●全体事業費：3,300百万円
　うち街路事業費：2,900百万円
●事業期間：昭和60年度～平成10年度
　（完成予定）